

★「NHK「土曜ジャーナル」放送内容に関するお詫び」……………」

りめーるやリメンバーしんぶん等で告知をさせていただきましたが、3月3日のNHK土曜ジャーナル「自殺遺族をどう支えるか～僧侶作家・玄侑宗久と考える～」をお聴きになった皆様には、ご不快な思いをさせてしまったこと、深くお詫び申し上げます。

当会としては、この番組が、**自死遺族支援の内容であったとは思っておりません。**取材を受けた私自身が大いに傷つく内容のものであり、担当アナウンサーの方には、放送直後に抗議のメールをお送りし、この番組が再放送されないことを希望する旨、こちらの意思をお伝えしております。

編集権はラジオ局にあります。が、「こういうことは絶対に止めてください」とくどいほどにお願いして、担当アナウンサーの方から確約を頂いたはずのいくつかのことが、平然と破られたことを、本当に悲しく思っています。

★番組の構成について……………」

スタジオゲストに玄侑宗久氏をむかえ、藍の会・リメンバー福岡・リメンバー名古屋の3つの団体が録音取材で登場するという形で、

- ・リメンバー福岡は、当事者でないIさん（リメンバー福岡代表）が精神保健福祉センターと連携して活動している様子の紹介、
- ・藍の会は、分かち合いの会の紹介、
- ・リメンバー名古屋は、当事者のTのストーリーを含めて、会の立ち上げまでのプロセスの紹介

になるときいていました。

リメンバー名古屋に関しては録音取材であるため、スタジオゲストの方と意見交換することができない以上、私のコメントをスタジオでこねくりまわさないことを、収録前日の打ち合わせの際、約束していただきました。

スタジオゲストの方はあくまでも一般論としての持論をお話しになる、とのことで、録音取材した内容に対してはコメントしない、とのことでした。

にも関わらず、実際の放送では、私のコメントのあと、「今の声はどのようにきかれましたか」とのアナウンサーのコメントが入る形で、番組が構成されておりました。

このように利用されることを想定して語ったものではありませんでした。

★「自責の念」について……………」

私自身が、

- ・自分自身の「自責の念」
- ・家族の自殺の原因

には言及したくありませんでしたので、その点についても、収録前日の打ち合わせの際に了解いただきました。

た。

しかし、「亡くなる直前の父からの電話をとらなかったことを激しく後悔した」ことについてぜひ語って欲しいとのことで、「その後、後悔しなくなっていくストーリーとセットで取り上げていただけるならば OK です」という条件で話した内容が、前半の「電話をとらなかったことを激しく後悔した」部分だけが切り出されて、利用されてしまいました。

会の活動とそれに関わる私自身が変化していく過程としてならば、話してもよいだろうと考え語った内容でしたが、「自死遺族の自責の念」が強調される形になっておりました。

私は、「自死遺族の自責の念」がステレオタイプ化していくことを懸念しており、このように利用されるのであれば、語るつもりはありませんでした。

★「リメンバー」という命名に対するコメントについて

私たちの会の命名や趣旨までをも否定するようなコメントがあり、不快な思いをされたことと思いません。

担当アナウンサーの方に確認したところ、これはあくまでも「リメンバー」という単語についておっしゃったことであり、私たちの会の名前や活動に対する否定のご意見ではないとのことです。
(番組ゲストの僧侶の方は、私たちの会のことはご存知ないはずであり、私も面識はありません。)

放送をお聴きになったみなさまには、不安な思い、不快な思いをされたことと思いますが、このような経緯です。このような番組を皆様にご案内したことを、心からお詫び申し上げます。

今後は、たとえ今回のように全国放送で、多くの自死遺族の方に情報を届けるための絶好のチャンスが訪れたとしても、二度とこのような取材に安易に応じることのないようにしたいと思います。

実名で自分の体験話を暴露することが、私個人にとってなんの意味を持つのでしょうか。会の立ち上げのプロセスとして語った内容が、編集の結果、「つらいつらい遺族の体験話」として利用されてしまったことに、私自身もたいへん傷ついております。当分は眠剤が手放せそうにありません。

薬も効いて体調も良好なのに、このようなことで傷ついて消耗していく自分を、ほんとうに情けなく思います。

リメンバー名古屋自死遺族の会 代表幹事

NHK 仙台放送局に対しては、正式に謝罪を求めています。

番組をお聴きになった方、もしよろしければ、NHK にご感想をお寄せください。当事者の痛みは、当事者が伝えなれば、傷つけた側には伝わらないのです。エネルギーの要ることですが、どうかよろしくお願い致します。

NHK 仙台・視聴者ふれあいセンター 022-211-1002
NHK仙台放送局(代表) 022-211-1001
全国放送番組についてのご意見・お問い合わせ 0570-066-066